

令和7年度事業実績

1 収 集

(1) 目 的

優れた美術品を「県立美術館作品収集方針」に基づいて体系的に収集し、美術品の量的、質的な充実を図る。

(2) 収集方針

- ・17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画の収集に努める。
- ・ロダンを中心とする国内外の近代以降の彫刻作品の収集に努める。
- ・20世紀以降の美術の動向を示す作品の収集に努める。
- ・静岡県ゆかりの作家、作品の収集に努める。
- ・富士山をモチーフとした作品の収集に努める。

※作品保有状況

(単位：点)

作品保有状況	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合 計
	370	303	60	121	1,433	348	96	10	94	155	2,990
主要収蔵作品	蘭亭曲水・龍山勝会図屏風（池大雅、重要文化財）、樹花鳥獣図屏風（伊藤若冲）、ラ・クロッシュ（佐伯祐三）、考える人、地獄の門（ロダン）、ルーアンのセーヌ川（モネ）、無題（No. White A.Z.）（草間彌生）等										
基金保有作品	家畜番の少女（ゴーギャン）、サン・トロペ、グリモアの古城（シニャック）、武蔵野図屏風（作者不詳）、蘭亭曲水図屏風（久隅守景）、石橋のある風景/水車のある風景（フランソワ・ブーシェ）、富士之図（黒田清輝）										

<令和7年度の取得状況>

【購入作品（計2件）】

No.	ジャンル	作者名	作品名	購入額(税込)
1	写真	エレナ・トゥタ ツチコワ	たねの季節：クレマチス#1（クレマチスガーデン、2023年3月）	715 千円
2	写真		たねの季節：クレマチス#2（クレマチスガーデン、2023年3月）	385 千円

【寄贈（作品38件・資料1件 計39件）】

黒田清輝《湘南風景》ほか38件

【管理換え（作品1件）】

横井弘三《花籠もてる子供》

2 保 存

(1) 目 的

県民の貴重な財産である美術作品・資料を後世に継承するために、作品の修復、館内外の保存環境の維持等を図る。

(2) 実 績

ア 作品の補修

- ・ケル＝グザヴィエ・ルーセル《サン＝トロペの海景》カビ清掃、額装
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《マルケルス劇場》旧ヒンジ除去、再マット装
- ・プロムナード彫刻メンテナンス（ジョージ・リッキー《四つの旋回する斜線 菱形》、掛井

- 五郎 《蝶》、佐藤忠良 《みどり》、舟越保武 《杏》、柳原義達 《道標・鳩》
- ・ロダン館及びブリッジ・ギャラリー彫刻清拭
- ・小泉癸巳男 《冬の猿橋》 マット装 ほか

イ 保存活動

展示室、荷解室、県民ギャラリー等の防虫処理をミラクンGXを用いて行った。また、年間を通して館内外の生物環境調査を行い、作品の保全に適した環境を維持している。

3 展 示

(1) 目 的

収蔵品の理解促進や調査研究の成果を踏まえ、各種の美術展を企画・開催し、県民に国内外の優れた美術作品の鑑賞の機会を提供する。

(2) 令和7年度展覧会開催実績

区分	展 覧 会 名	期 間	観覧者数(人)	
			見込	実績
企画展	ブルックリン博物館特別展古代エジプト	4/19～6/15(51日間)	61,000	66,109
	これからの風景 世界と出会いなおす6のテーマ	7/5～9/23(69日間)	12,000	10,775
	金曜ロードショーとジブリ展	10/11～1/4(75日間)	180,000	242,461
	中村宏展 アナクロニズム(時代錯誤)のその先へ	1/20～3/15(48日間)	8,000	11,331
収 蔵 品 展		4/1～3/31(280日間)	10,000	14,060
観 覧 者 数 合 計			271,000	344,736
移動美術展	富士市文化会館ロゼシアター	9/19～9/28(10日間)	2,000	2,726

※収蔵品展

企画展と関連づけた展示によりコレクションの新たな魅力を発信した。

展覧会名	会期
石崎光瑠展関連展示 第2部 絢爛たる花鳥画	(2/18)～4/6
新収蔵品展	4/9～6/15
本館竣工40周年記念 たてもの探訪	7/1～8/17
絵から読む物語	8/19～9/28
2000年代の絵画 静岡ゆかりの作家による	1/20～(4/19)

◎企画展、収蔵品展の観覧者数内訳は資料2を参照

4 教育普及

(1) 目 的

県民の創作意欲に応える実技系事業及び学校と連携した教育普及プログラムを実施するとともに、展覧会に関連した各種普及事業を開催する。

(2) 実 績

視覚障害者と晴眼者による鑑賞会や講座系においては企画展毎に館長による美術講座を開催したほか、様々な分野の専門家を招へいた講演会等、幅広い事業を開催した。

結果として、見込み数13,501人を上回る14,310人の参加があった。

事業計画		事業実績
教育普及プログラム参加者総数 (実技・体験＋講座・講義＋学校連携)		14,310 人 ・プログラム数 28 本
実技・体験	県民の創作意欲に応える実技系事業、展覧会関連普及事業等の開催（創作週間、実技講座、ねんど開放日、タッチツアー等）	5,914 人 ・プログラム数 12 本
講座・講義	特別講演会、館長美術講座、フロアレクチャー等の開催	2,199 人 ・プログラム数 5 本
学校連携	美術館教室等の開催（出張美術講座、ねんど・えのぐ教室、粘土貸出、教員研修等）	6,197 人 ・プログラム数 11 本

5 調査研究

(1) 目 的

調査研究は、県立美術館の活動を特徴付ける基盤であり、学芸員の調査研究をより一層充実させ、その成果を広く発表するとともに、調査研究の基礎となる図書や作品資料の収集を図る。

(2) 実 績

ア 学芸課研究会の実施

毎月1回のペースで学芸課職員による研究会を実施している。発表時間約40分の後、質疑応答約20分。研究会のテーマは自由に設定し、発表後は館長及び課員との質疑応答を行うことで、研究成果を共有し、有益な示唆を得る機会となっている。

- ①開館40周年に向けて2 美術館をどのように「ひらく」のか(4月 木下直之)
- ②中村宏の「呪物」に関する考察 井上武吉《慰霊之泉》に対する解釈を入り口にして(5月 川谷承子)
- ③谷口香嶠《平等院春景・修学院離宮秋景図》(仮称)に見る明治後期の京名所(7月 石上充代)
- ④沼津美術研究所について(7月 植松篤)
- ⑤横井弘三《花籠持てる子供》とその県立葵文庫への収蔵経緯について(9月 喜多孝臣)
- ⑥雑画帖の制作背景に関する試論―新収蔵品の紹介をかねて―(10月 薄田大輔)
- ⑦静岡県立美術館の西洋風景画コレクションの形成について(11月 貴家映子)
- ⑧ヴェドゥータについて(12月 新田建史)
- ⑨令和7年度 教育普及事業の実践報告と今後に向けて(1月 山本勇実)
- ⑩江戸時代の絵画に表された笠雲について(2月 浦澤倫太郎)
- ⑪2025年度教育普及事業―学校連携を中心に(3月 南美幸)
- ⑫「第五福龍丸」を刻んだ版画―上野誠の作例から(3月 古家満葉)

イ 美術館研究紀要の発行

第41号を発行し、3本の論文を収録した。

- ・新田建史「ジャンルとしてのヴェドゥータとヴェドゥータという概念について」
- ・浦澤倫太郎「江戸時代後期の駿府における富士山図集の刊行―大石周我『山王真形』、山田貞実『芙蓉奇観』について―」
- ・薄田大輔「狩野派の雑画帖制作背景に関する試論―狩野探信守政筆「雑画貼交屏風」の紹介をかねて―」

ウ 博物館実習の受入れ

8月4日(月)から8日(金)までの5日間、10大学12名の学生を受け入れた。

エ 書庫・図書室の運営

- ・限られた図書購入予算の中、優先順位をつけて図書を購入した。
(刊行図書 25冊、美術雑誌 193冊)

- ・図書閲覧室はボランティア図書閲覧室グループ（56名）の協力により、233日間開室した。
- ・図書関連のデジタルアーカイブに関しては、新たに受け入れた図書については速やかに登録・公開を行い、順調にデータ数を増やしている。

オ 館蔵品のデジタルコンテンツ化

伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》の三次元計測結果から絵具の凹凸による微細な変化を分析的に把握、柘目描きの特殊な表現効果について新たな視点から検証し、研究を進展させた。

6 広 報

(1) 目 的

県立美術館に親しみを感じ、新たな価値を見出す快適な場であることを広く県民に周知するため、Webサイトの充実、マスメディア、SNSを活用した情報発信を進めるとともに、地域との連携を積極的に図る。

(2) 実 績

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進し、さらに企画展の共催者・協賛者等と協働による広域的な広報を行った。

ア 情報発信機能の強化

- (ア) ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、X（旧ツイッター）による情報発信と、訪問者の情報解析等
- (イ) 展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- (ウ) 各展覧会の客層を考慮したポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- (エ) 県広聴広報課との連携（県民だより・県公式アカウントによるX（旧ツイッター）、ラジオ、包括連携協定による広報物掲示・配架）、P R T I M E Sを利用した国内メディア向けオンライン・プレスリリースの配信
- (オ) ボランティア・広報サポーターへの情報提供
- (カ) 展覧会共催者（新聞社・テレビ局）等との連携
- (キ) 企画展に関連する講演会・イベントを行い集客を図った
- (ク) 美術館ニュース「アマリリス」の発行
- (ケ) インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトでの情報発信
- (コ) 静岡県立美術館デジタルアーカイブの充実
 - ・約20,000冊の書誌情報を新たに公開した。
 - ・作品作家情報の精度向上を図った。
 - ・新たに実施した伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》の三次元計測により得られた画像を公開、超高精細カラー画像と比較しながら絵具の凹凸という特殊な細部描写を鑑賞することを可能にした。
- (サ) ロダンウィークによる集客・啓発
 - ・平成26年度にロダン館開館20周年を契機として立ち上げたロダンウィークを9月19日（金）～21日（日）及び23日（火・祝）に開催した。
 - ・「ロダン賞コンサート」や草薙マルシェ実行委員会との協働による「丘の上のロダンマルシェ」、静岡市登録パフォーマーによる「スタチューパフォーマンス」などを実施し、ロダン館への誘客を図った。
 - ・イベント全体で、約6,000人の集客実績があった。

イ 教育機関との連携

(ア) 職員による教育支援等の講義

- ・静岡大学出講
「〈現代〉の芸術—文学・演劇・美術」（6月30日、7月7日、14日）
- ・静岡県立大学出講

「広域ヨーロッパ研究センター特別講義 県立美術館のコレクションから考える『これからの風景』(7月11日)

(イ) 各学校の美術館利用促進

年度末に、県内小・中・高・特別支援学校へ年間スケジュール・美術館教室のしおり等を配付した。

ウ 地域等との連携

(ア) 県立美術館ボランティア

- ・令和5年度から任期を1年として更新可能とすると同時に、年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若年層にも参加しやすいものとした。選考と研修を行い、147名の方をボランティアとして登録した。
- ・活動期間(任期):令和7年4月1日～令和8年3月31日(更新可能)
- ・活動方針:「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

(イ) 県立美術館友の会

友の会は、県立美術館の活動を後援することによって、芸術文化の向上を図ることを目的とする親睦団体である。友の会会員向けの館長講座、学芸員によるレクチャー、研修旅行などの行事を開催した。また、会員が編集した友の会だより「プロムナード」を年2回(4月、10月)発行した。

(ウ) ムセイオン静岡

- ・谷田地域の文化教育7機関(県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPA C、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム)が多分野における連携を進め、更なる文化の情報発信を目指す。
- ・ムセイオン静岡協働イベント「文化の丘フェスタ」(令和7年10月14日(火)～11月3日(月・祝))においてスタンプラリーを実施し、周知を図った。

(エ) 草薙商店会等

- ・草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダンウィークに「丘の上のロダンマルシェ」を開催した。(9月23日(火・祝))
- ・商店会、自治会、大学、小中学校、文化施設、金融機関、鉄道会社、市役所等で構成される草薙・有度地区の将来のまちづくりを検討する「草薙駅周辺まちづくり検討会議」へ参加した。

エ 新たな取組み

(ア) ロダン館ナイトミュージアム

灯りを落としたロダン館の夜の鑑賞会、1月下旬～3月中旬の毎土曜日に実施し、約360人の集客実績があった。

(イ) 有名VTuberを起用した音声ガイドの制作

ロダン館、企画展(中村宏展)及び収蔵品展において、VTuber「儒烏風亭らでん」による音声ガイドを作成して話題を創出し、SNS等を活用した広報を展開した。

(ウ) ロダン館で撮影したミュージックビデオの活用

知名度向上及び来館者数増加を目的として、「乃木坂46 Music Video」の撮影をロダン館で受入れ。聖地巡礼者誘致のため、MV公開と同時にSNSを活用した広報を展開した。

(エ) サブスクリプションサービスの活用

廉価な定額で一定期間複数回当館に入館できる等、鑑賞機会を増やすため、県が運営に助成しているサブスクリプションサービス「しずGO!」に参画し、積極的に周知した。

7 環境・施設整備

(1) 目的

来館者の快適で安心安全な鑑賞環境や、収蔵品の適切な保存環境を確保するため、施設・園地の適切な維持管理や新たなサービス等の提供を図る。

2) 実 績

- ・館内レストランにおいて、企画展ごとに県産品を使用した特別メニューを開発して提供した。
- ・ミュージアムショップ運営事業者との連携により、新たに当館オリジナルグッズを開発・販売した。
- ・来館者が多く、館内の混雑が予想された金曜ロードショーとジブリ展においては、全面的に電子チケット制を導入することにより、チケット購入の手間を省くことができ、また、入館時間を円滑に指定することができる等、混雑緩和に大きく寄与した。

8 運営

(1) 目 的

県立美術館の使命をより円滑かつ効率的に行うため、運営基盤の強化を図る。

(2) 実 績

ア 運営基盤の拡充（収入の確保）

- ・開催経費が増大している大規模巡回展の誘致を目的として、県条例で規定されていた企画展観覧料の上限（1,500 円）が令和 6 年度末に撤廃されたため、展覧会の開催経費を踏まえた観覧料の設定を行い、収入の確保を図った。
- ・企画展「これからの風景 世界と出会いなおす 6 のテーマ」の開催経費の一部に充当するため（公財）花王芸術・科学財団から、「中村宏展 アナクロニズム（時代錯誤）のその先へ」については（独）日本芸術文化振興会から助成金を得る等、外部資金の導入を図った。

イ 企業との連携強化による運営の充実

(ア) 開館 40 周年企業サポーター」制度の創設準備

「開館 40 周年企業サポーター」制度を立案し、中部地域を中心に企業を訪問するとともに、当館ウェブサイトにより賛同企業を募集した。

(イ) 制度の概要

- ・開館 40 周年を機に、企業・団体がこれまでの個別の展覧会の協賛ではなく、年間を通じた運営・活動を協賛・支援する制度
- ・寄附金を拠出していただいた企業・団体に対し特典を提供するなど、より緊密な連携関係を構築する。

(ウ) サポータープラン、特典等

プラン	条件	主な特典	寄付金額等(※)
コアサポーター	1,000 千円以上の寄附企業等	・企業名の館内掲示、企画展ポスター、チラシへの掲出 ・企業活動紹介パネルの館内掲示 ・企画展開会式等招待（1 展覧会 10 名まで） ・企画展観覧料団体割引・収蔵品展・ロダン館無料パスポート進呈 ・無料鑑賞会の開催（年 1 回）	1,000 千円寄附 … 5 企業
サポーター	100 千円以上 1,000 千円未満の寄附企業等	・企業名の館内掲示、企画展ポスター、チラシへの掲出 ・企画展開会式等招待（1 展覧会 4 名まで） ・企画展観覧料団体割引・収蔵品展・ロダン館無料パスポート進呈	100 千円寄附 … 1 企業
※寄附金の納付は令和 8 年度			計 5,100 千円